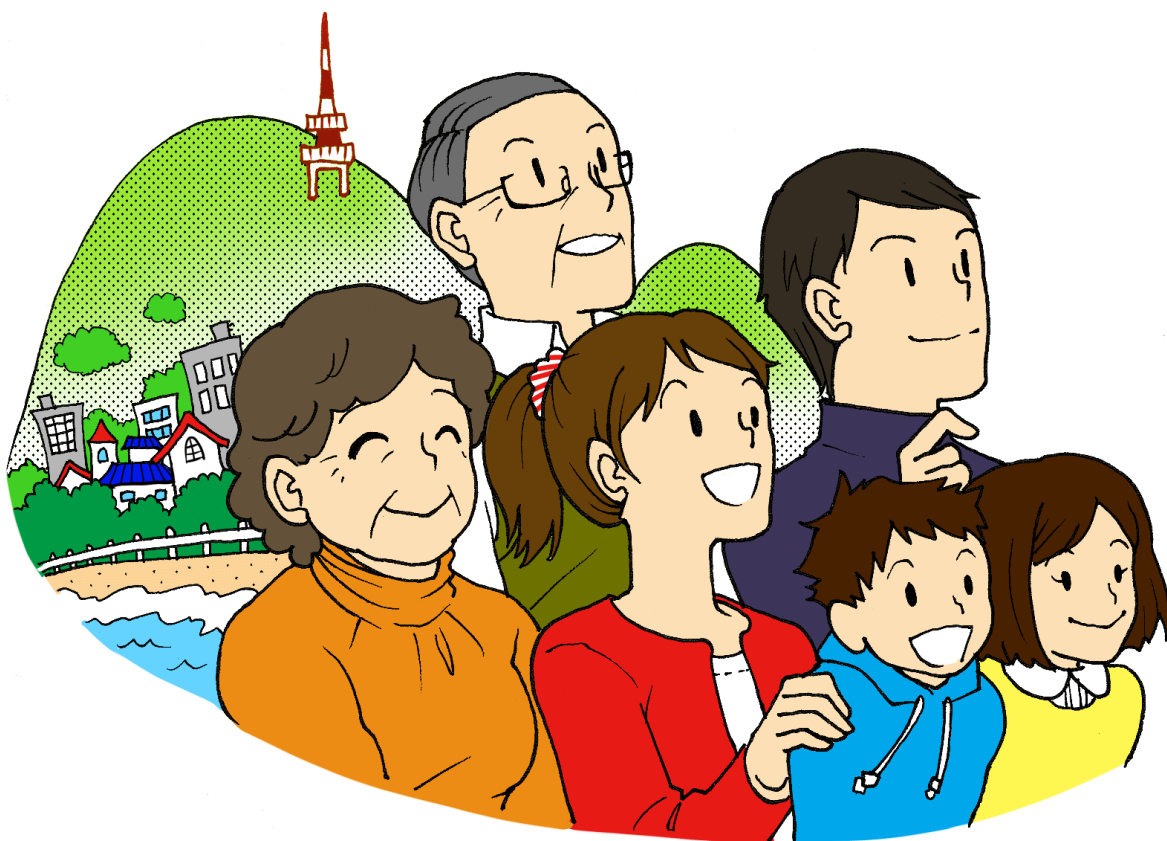


基本目標 5 【安全・快適なまち】

～ 安全で、みんなが快適に暮らせるまち ～



【関連する主な分野】

防災・防犯、消防・救急、中心市街地、公共施設、公共交通、幹線道路

安全を基本としながら、多くの人が行き交う中心市街地が一層活気と魅力にあふれ、公共施設がコミュニティ*の中心として十分に活かされるまちをめざします。また、公共施設などを誰もが気軽に利用できるまちをめざします。

達成方針

5-① <安全>

災害に強い安全なまちづくりを進める



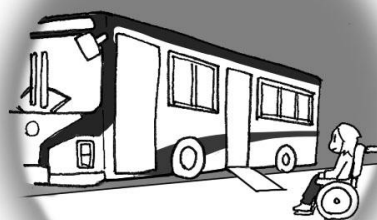
5-② <まちの顔>

活気ある魅力的な中心市街地をつくる



5-③ <利便性>

誰もが快適に利用できるよう、
公共施設などの利便性を高める



達成方針 5-① 〈安全〉

災害に強い安全なまちづくりを進める

めざすまちの姿や暮らしの状態

- 災害への備え、災害時の正しい行動のしかたが市民に浸透している
- 迅速に対応できる危機管理の体制が整っている
- 災害時の避難や救援の場となる拠点が整備されている
- 消防・救急活動が迅速かつ的確に行われている
- 安心して暮らせる安全なまちの環境が整っている

現状と課題

- 本市は、東海地方に大規模な地震が発生した場合、著しい災害が生ずる恐れのある地域として、地震防災対策強化地域に指定されています。また、東日本大震災を契機として、地震や津波災害に対する備えの必要性が一層高まっています。
- 市民一人一人が災害時に迅速に対応できるように多様な情報収集手段、確実性のある広報手段を確立することが求められています。
- 市内には公園や学校など6箇所の広域避難場所*が指定されており、災害時における市民生活を確保するため、小・中学校など44箇所で食糧や生活必需品などの防災備蓄をしています。
- 災害時の円滑な応急活動を実施するため、総合公園を総合防災基地として、防災資機材などの備蓄をしているほか、避難施設（小・中学校や高校など55箇所）の中に地域の中核となる機能を持たせるなどの対応が求められています。
- 防災に対する自助・共助の意識をさらに高めるため、地域共助のしくみづくりが求められています。
- 広域的な応援体制の充実を図るための、相互応援協定都市*との連携（職員相互派遣研修など）が求められています。
- 救急需要の増加等に対応する救急搬送体制の充実が求められています。
- 高齢化が進み心肺停止患者の救命率向上が求められています。
- 災害や犯罪から暮らしを守るまちづくりが求められています。
- 国民保護計画*の推進が求められています。

施策体系

【達成方針】

5-① <安全> 災害に強い安全なまちづくりを進める

【基本施策】

1. 安全に対する意識を高める

2. 被害を最小限に抑える防災の意識を充実する

3. 迅速かつ的確な消防・水防と救急・救助、救援の体制を充実する

基本施策

1. 安全に対する意識を高める

- ◆ 震災を始めとした自然災害から身を守るために、防災訓練の参加や避難場所・経路の確認、市民一人一人に十分な災害への備えを促すなど、防災意識の啓発を図ります。
- ◆ 犯罪に巻き込まれないために、防犯に係る啓発活動を充実し、防犯意識の高揚を図ります。
- ◆ 警察など関係機関と連携して交通安全運動などを展開し、交通安全意識の高揚を図ることで、歩行者や自転車、自動車などの交通事故の減少につなげていきます。
- ◆ 市民生活を脅かす火災から身を守るために、火災予防についての啓発活動や訓練などを推進します。

【個別施策】

- 1 自然災害に対する防災意識の高揚
- 2 防犯意識の高揚
- 3 交通安全意識の高揚
- 4 火災予防の推進

2. 被害を最小限に抑える防災の意識を充実する

- ◆ 市民一人一人が災害時に迅速かつ的確な行動がとれるように防災情報の伝達手段を充実します。
- ◆ 国民保護計画※に基づき、避難実施要領の的確な周知を図ります。
- ◆ 災害時における高齢者や障がい者などの安否確認や救出、移動支援などの対策を充実します。また、防災拠点となる各公共施設に対して、防災資機材、食糧、生活必需品などの備蓄を計画的に進めます。
- ◆ 災害による被害を最小限に抑えるため、建築物などの耐震性や道路、橋りょうなどの安全性の向上を促進します。
- ◆ 津波災害による人的被害を回避するため、緊急一時待避場所となる「津波避難ビル」の指定を進めます。
- ◆ 福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射能に伴う市民の不安に対応するため、国・県・関係機関等との連携による取組みを進めます。

【個別施策】

- 1 災害情報提供の充実
- 2 防災体制と拠点の充実
- 3 建築物などの耐震性や道路、橋りょうなどの安全性の向上

3. 迅速かつ的確な消防・水防と救急・救助、救援の体制を充実する

- ◆ 消防力を高めるため、消防庁舎、消防車両等、資機材及び通信設備の整備充実を図ります。
- ◆ 水防力を高めるため、水防団の育成や資機材を整備します。
- ◆ 複雑多様化する災害・事故に対応するため、救急隊員への教育訓練の強化や資機材の充実を図るとともに、市民に対する応急手当の普及啓発を推進します。
- ◆ 他自治体との応援協定の推進を図り、災害時における応援体制の強化を図ります。
- ◆ 救急出動件数の増加に対応するとともに、大規模災害時における救急搬送体制の整備充実を図ります。

【個別施策】

- 1 消防・救急・救助体制の充実
- 2 水防体制の充実
- 3 広域的な応援体制の充実
- 4 市民に対する応急手当の普及啓発の推進

主な事業 《安全》

- ◆ 災害知識の普及・啓発（基本施策 1－個別施策 1）
- ◆ 建築物などの耐震化の促進（基本施策 2－個別施策 3）
- ◆ 消防庁舎・訓練施設・消防車両等の整備（基本施策 3－個別施策 1）
- ◆ 応急手当の普及啓発の推進（基本施策 3－個別施策 4）

市民と市の役割

● 市民 ●

- ◇ 災害や防犯に対する家庭での備え
- ◇ 訓練や講習会への参加
- ◇ 交通ルールを守る
- ◇ 避難場所、経路及び方法についての確認
- ◇ 建物の耐震・耐火性の把握と災害への備え

● 市（行政） ●

- ◇ 防災・防犯や交通安全に関する啓発
- ◇ 訓練や講習会の実施
- ◇ 災害に強い都市づくりへの情報提供と支援
- ◇ 防災・危機管理体制づくりの推進

成果指標の推移

■火災発生件数（年間）（担当課資料）

計画策定時	23 年度		28 年度目標値
	目標	実績	
108 件	104	80	99 → 75

【備考】上記の実績値は平成 22 年中のもの。この実績値が 28 年度目標値を上回ったため、当初設定した目標値から上方修正します。

■普通救命講習修了者数（延べ人数）（担当課資料）

計画策定時	23 年度		28 年度目標値
	目標	実績	
13,150 人	23,150	28,539	33,150

【備考】上記の実績値は平成 7 年度から平成 22 年度までの延べ人数。

■『日常生活の安全が守られている』と感じている市民の割合【再掲】（市民意識調査）

計画策定時	23 年度		28 年度目標値
	目標	実績	
13.0%	20.0	19.1	30.0

【備考】上記の実績値は平成 23 年 8 月のもの。

■防災訓練実施団体数（担当課資料）

計画策定時	23 年度		28 年度目標値
	目標	実績	
265 団体	280	176	300

【備考】上記の実績値は平成 22 年度のもの。

■犯罪発生件数【再掲】（行政概要）

計画策定時	23 年度		28 年度目標値
	目標	実績	
4,833 件	4,400	3,447	4,100 → 3,300

【備考】上記の実績値は平成 22 年中のもの。この実績値が 28 年度目標値を上回ったため、当初設定した目標値から上方修正します。

■交通事故発生件数【再掲】（行政概要）

計画策定時	23 年度		28 年度目標値
	目標	実績	
2,244 件	2,100	1,746	1,900 → 1,640

【備考】上記の実績値は平成 22 年中のもの。この実績値が 28 年度目標値を上回ったため、当初設定した目標値から上方修正します。



災害想定訓練



災害用組立トイレの設置訓練



交通安全教室

達成方針 5-② 〈まちの顔〉

活気ある魅力的な中心市街地をつくる

めざすまちの姿や暮らしの状態

- 商店街が魅力にあふれ、人々が集まりにぎわっている
- 高齢者から子どもまで、多くの人々が街へ出かけて楽しく過ごしている
- 誰もが憩えるような、良好な駅周辺環境が整っている
- 市民と協働で防犯対策に努め、誰もが安心して歩ける街になっている

現状と課題

- 中心市街地（見附町、錦町、紅谷町、明石町、宮の前、宝町、老松町、八千代町、八重咲町、代官町）は、戦後の惨禍から復興を遂げて、市民の生活を支えているほか、湘南ひらつか七夕まつりなどが広く知られています。
- 中心市街地においても、長期化する低成長経済の影響や大規模小売店を含めた店舗の閉鎖により、にぎわいの減少が見られます。
- にぎわいの創出や買い物環境の改善に向け、商店街をはじめとした組織により取り組みが行われています。また、まちづくり計画に基づき、平塚の顔にふさわしい街の再整備が進められています。
- 駅周辺では、未だに自転車が放置され、防災上、交通安全上、景観上など様々な問題が生じていることから、引き続き駐輪スペースの増設が求められています。
- 中心市街地における都市景観は、多種多様な看板や広告物などの設置、統一感のない建物などによる街並みが見られ、駅周辺の放置自転車を含め雑然とした面が見られます。
- 夜に安心して歩けないという市民の声があり、安全に過ごすことができる街づくりが求められています。
- 人が集まる拠点として、駅周辺においてバリアフリー^{*}化など誰もが安全で快適に利用できる環境づくりを一層進めることが求められます。
- 駅周辺で、歩いて暮らせる範囲に居住することによる生活の利便性や環境負荷の低減が求められています。

施策体系

【達成方針】

5-② <まちの顔> 活気ある魅力的な中心市街地をつくる

【基本施策】

1. 人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める
2. 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する
3. 誰もが安心して、安全、快適に過ごせる環境づくりを進める

基本施策

1. 人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める

- ◆ 市民の暮らしのニーズにこたえられるよう、活性化を図る組織などと連携しながら商店街の機能を充実します。
- ◆ 広域的な集客力の向上に資する商店街の魅力づくりを促進します。
- ◆ 全国的に知名度のある七夕まつりは、協働による運営を推進します。

【個別施策】

- 1 にぎわいと活気あふれた商店街づくり
- 2 七夕まつりの活性化

2. 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する

- ◆ 見附台周辺地区など公共空間の再整備や公共公益用地を有効活用し、市民が憩える都市空間の整備を進めます。
- ◆ 高齢社会に対応して誰もが安全に駅周辺のまちを利用できるよう、ユニバーサルデザイン※、バリアフリー※に配慮した平塚駅北口広場の整備改善、西口再整備を進めます。
- ◆ まちの顔として、魅力的で秩序ある都市景観づくりを促進します。
- ◆ 駅周辺に住み、歩ける範囲に生活利便施設があるまちづくりを目指します。

【個別施策】

- 1 市民が憩える都市空間整備の推進
- 2 駅周辺の高度利用化の推進
- 3 駅前広場などの整備改善
- 4 魅力ある都市景観づくりの促進

3. 誰もが安心して、安全、快適に過ごせる環境づくりを進める

- ◆ 駅周辺における駐輪場の整備など、放置自転車対策を進め、快適に歩ける環境づくりに努めます。
- ◆ 警察と市民が連携した地域ぐるみのパトロールなどにより、防犯体制を強化し、市民が安心して、安全に過ごせるまちづくりをめざします。

【個別施策】

- 1 放置自転車対策の推進
- 2 犯罪のない安心・安全なまちづくりの推進

主な事業 《まちの顔》

- ◆ 中心市街地活性化の推進（基本施策 1－個別施策 1、基本施策 2－個別施策 1）
- ◆ 見附台周辺地区の再整備（基本施策 2－個別施策 1）
- ◆ 平塚駅北口広場の整備改善（基本施策 2－個別施策 3）
- ◆ 駅周辺の高度利用化（基本施策 2－個別施策 2）
- ◆ 平塚駅西口再整備の推進（基本施策 2－個別施策 3）
- ◆ 放置自転車対策の実施（基本施策 3－個別施策 1）

市民と市の役割

● 市民 ●

- ◇ 個性あふれる商品・商店街づくり
- ◇ 七夕まつりへの積極的な参加
- ◇ 安全な自転車通行や交通ルールの遵守
- ◇ 防犯活動への主体的取組み

● 市（行政） ●

- ◇ 中心商店街活性化への支援
- ◇ 駅周辺の公共空間の整備
- ◇ 駐車・駐輪対策の推進

成果指標の推移

■中心市街地年間商品販売額

(平塚市の商業 - 平成19年商業統計調査結果報告)

計画策定時	23年度		28年度目標値
	目標	実績	
212,214 百万円	212,500	228,764	213,000 → 229,000

【備考】上記の実績値は平成19年6月1日現在のもの。この実績値が28年度目標値を上回ったため、当初設定した目標値から上方修正します。

■『中心商店街を快適に歩ける』と感じている市民の割合

(産業活性化ビジョン策定のための市民意識調査)

計画策定時	23年度		28年度目標値
	目標	実績	
4.6%	10.0	15.5	20.0

【備考】上記の実績値は平成19年度のもの。また、計画策定時の実績値は平塚市商業アンケート調査(買物調査)。

■七夕まつり市民協力・子ども飾り参加団体数

(七夕まつり実績報告)

計画策定時	23年度		28年度目標値
	目標	実績	
45団体	50	51	55

【備考】上記の実績値は平成22年度のもの。

■七夕まつり市民自主企画事業数

(七夕まつり実績報告)

計画策定時	23年度		28年度目標値
	目標	実績	
10事業	12	11	14

【備考】上記の実績値は平成22年度のもの。

■中心商店街歩行者通行量(平日:1日あたり)

(平塚市商業のあらし)

計画策定時	23年度		28年度目標値
	目標	実績	
171,063人	172,000	235,781	177,000 → 236,000

【備考】上記の実績値は平成19年度のもの。この実績値が28年度目標値を上回ったため、当初設定した目標値から上方修正します。

■中心商店街歩行者通行量(休日:1日あたり)

(平塚市商業のあらし)

計画策定時	23年度		28年度目標値
	目標	実績	
187,452人	188,000	200,712	195,000 → 201,000

【備考】上記の実績値は平成19年度のもの。この実績値が28年度目標値を上回ったため、当初設定した目標値から上方修正します。

■放置自転車数(中心市街地、1日あたり)

(担当課資料)

計画策定時	23年度		28年度目標値
	目標	実績	
1,748台	100	1,415	50

【備考】上記の実績値は平成22年度のもの。

■紅谷町まちかど広場利用イベント数(年間)

(担当課資料)

計画策定時	23年度		28年度目標値
	目標	実績	
48件	70	65	90

【備考】上記の実績値は平成22年度のもの。



湘南ひらつか七夕まつり



バリアフリー化された平塚駅北口

達成方針 5-③ ＜利便性＞

誰もが快適に利用できるよう、
公共施設などの利便性を高める

めざすまちの姿や暮らしの状態

- 誰もが快適に公共施設を利用し、いきいきと暮らしている
- 誰もが快適に公共交通機関を利用し、スムーズに往き来している

現状と課題

- 市庁舎、市民病院、市民センターなどの公共施設は老朽化が進み、市民生活の拠点として適切な対応が求められています。
- 公共施設には、健全で効果的な運営と的確なサービスを提供するため、民間活力を活用しながら市民の多様なニーズにこたえる施設の管理・運営を行うことが求められています。
- 本市では、JR東海道本線が市南部の市街地中心部を東西に通っていますが、平塚駅が唯一の駅となっており、駅を起点とした放射状の道路網を形成しているため、駅に集中するバス路線の定時性確保などが課題となっています。

施策体系

【達成方針】

5-③ <利便性> 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める

【基本施策】

1. 安全で快適に利用できる公共施設の充実を図る
2. 市民ニーズに合った公共施設の適正な管理と運営を進める
3. まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める

基本施策

1. 安全で快適に利用できる公共施設の充実を図る

- ◆ 高齢者や障がい者が気軽に利用できるよう公共施設のバリアフリー*化を推進します。
- ◆ 災害時の地域の防災拠点として機能するために、施設の安全性を確認するなど、耐震性の向上を図ります。
- ◆ 市民生活を支える拠点として安全、快適に利用するために、市庁舎や市民病院などの建替えや整備を進めるとともに、市民センターを始めとする老朽化した公共施設の補修や建替えの検討を進めます。

【個別施策】

- 1 施設のバリアフリー化
- 2 施設の耐震性の向上・老朽化の改善に伴う補修・建替え

2. 市民ニーズに合った公共施設の適正な管理と運営を進める

- ◆ 市民ニーズに合った柔軟な公共施設の管理・運営を行うため、民間活力を活かした指定管理者制度*などを推進します。
- ◆ 市民や地域の力を活用し、協働による管理・運営のしくみづくりを進めます。

【個別施策】

- 1 民間活力を活かした公共施設の管理・運営の推進
- 2 市民との協働による公共施設の管理・運営のしくみづくり

3. まちの活動に活力をもたらし公共交通の利便性を高める

- ◆ 公共交通機関の安全性・利便性を高めるために、バリアフリー^{*}化の推進など、市民が快適に移動できる環境整備を推進します。
- ◆ 相鉄線いずみ野線の平塚方面への延伸、在来線の平塚駅乗り入れ、貨物線の旅客線化の促進や路線バスの定時性・速達性の向上に向けた取組みの実施、市民の暮らしのニーズに合った公共交通の導入について地域と協働で検討します。
- ◆ 広域交通、地域交通の円滑化を図るため、幹線道路や橋りょうの整備を推進します。

【個別施策】

- 1 公共交通機関の安全性・利便性の向上
- 2 地域のニーズに合った公共交通の検討
- 3 幹線道路・橋りょうの整備

主な事業 《利便性》

- ◆ 市民病院整備事業（基本施策 1－個別施策 2）
- ◆ 新庁舎建設事業（基本施策 1－個別施策 2）
- ◆ 新文化センター整備事業（基本施策 1－個別施策 2）
- ◆ 平塚市総合交通計画の推進（基本施策 3－個別施策 2）

市民と市の役割

● 市民 ●

- ◇ 高齢者・障がい者の移動への理解と支援
- ◇ 公共施設の新たな管理・運営への参加
- ◇ 環境に配慮した適切な交通手段の選択と行動

● 市（行政） ●

- ◇ 施設の耐震性・バリアフリー化の推進
- ◇ 公共施設の新たな管理・運営の推進
- ◇ 公共交通機関を利用しやすい環境整備と交通事業者との連携強化
- ◇ 自転車利用に向けた環境整備の推進

成果指標の推移

■公民館利用者数（年間）【再掲】 (行政概要)

計画策定時		23年度	28年度目標値
1,266,980 人	目標	1,452,000	1,602,000
	実績	1,138,562	

【備考】上記の実績値は平成22年度中のもの。

■青少年会館利用者数（年間） (行政概要)

計画策定時		23年度	28年度目標値
85,342人	目標	88,000	90,000
	実績	74,243	

【備考】上記の実績値は平成22年度中のもの。

■市民センター利用者数（年間） (行政概要)

計画策定時		23年度	28年度目標値
177,980人	目標	180,000	275,000
	実績	196,791	

【備考】上記の実績値は平成22年度中のもの。

■博物館利用者数（年間）【再掲】 (平塚市統計書)

計画策定時		23年度	28年度目標値
74,898人	目標	78,000	86,000
	実績	51,627	

【備考】上記の実績値は平成22年度中のもの。

■管理・運営を、行政から事業者、市民活動団体などへ変更した公共施設数（延べ施設数） (担当課資料)

計画策定時		23年度	28年度目標値
10施設	目標	30	60
	実績	42	

【備考】上記の実績値は平成23年3月31日現在のもの。

■『買い物や通勤・通学など市内外への移動がしやすい環境が整っている』と感じている市民の割合 (市民意識調査)

計画策定時		23年度	28年度目標値
28.8%	目標	35.0	40.0
	実績	26.7	

【備考】上記の実績値は平成23年8月のもの。

■美術館利用者数（年間）【再掲】 (平塚市統計書)

計画策定時		23年度	28年度目標値
59,080人	目標	65,000	80,000 → 100,000
	実績	95,049	

【備考】上記の実績値は平成22年度中のもの。この実績値が28年度目標値を上回っているため、当初設定した目標値から上方修正します。

■平塚駅での電車乗車人数（1日当たり） (平塚市統計書)

計画策定時		23年度	28年度目標値
58,200人	目標	58,200	59,000 → 60,000
	実績	59,955	

【備考】上記の実績値は平成22年度中のもの。この実績値が28年度目標値を上回ったため、当初設定した目標値から上方修正します。

■平塚駅でのバス乗降者数（1日当たり）（担当課資料）

計画策定時		23年度	28年度目標値
40,000人	目標	41,000	42,000
	実績	—	→ 指標廃止

【備考】事業者による調査がされなくなり、実績値を把握できなくなったため指標を廃止します。



駅前大通り東駐輪場



新庁舎外観イメージ